【授業科目】急性看護学演習Ⅰ（クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅰ）

Advanced Seminar of Acute Nursing Ⅰ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
吉田 和枝、小寺 直美、吉川 尚美	１年次 前　期	選　択	２	４５	演習	巻末 掲載

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	クリティカル状況にある患者の回復に向けた、ケアとキュアが融合した介入および家族に対する援助的かかわりについての実践力を養う。 授業は、実務家教員（吉田、小寺、吉川)が進める。 課題に対するフィードバック方法/レポートにコメントをつける。ディスカッションをしながら授業内で返していく。
授業の 位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー②、③、④の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①クリティカルケア状態にある患者の回復に向けたケアとキュアが融合した介入について理解できる ②クリティカルな現場における患者・家族を多角的に捉えることができる。 ③患者と家族の相互関係と看護介入モデルの活用と有用性について理解することができる。
時間外学習に必要な 内容・時間	配布資料および紹介する文献は授業以外にも読むことで授業の理解を深める（各60 分) 臨床での体験を授業内容に生かし、学びを深める（各60 分) 自らも文献レビューを行い、レポートを作成する（各120 分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回)(１単位１５回科目の場合：予習+復習 1時間／１回)(１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	＜クリティカルケア状態にある患者の回復に向けたケアとキュアが融合した介入の理解＞ 第 1 回 クリティカルケア看護に必要な臨床看護実践能力：緊急処置・蘇生をうける患者理解① 第 2 回 クリティカルケア看護に必要な臨床看護実践能力：緊急処置・蘇生をうける患者理解② 第 3 回 クリティカルケアに活用されるモニタリング機能：重症患者の生体情報モニタリング① 第 4 回 クリティカルケアに活用されるモニタリング機能：重症患者の生体情報モニタリング② 侵襲的・非侵襲的モニタリング 第 5 回 クリティカルケア看護におけるチーム医療による協働性と看護の独自性/自律 ・患者の状況に合わせた治療における看護師の役割：事例検討 ＜クリティカルな現場における患者・家族を多角的に捉える＞ 第 6 回 クリティカルケア・周手術期患者のためのアセスメントモデルの枠組みと理論背景① ・患者・家族の生活原理/価値観、スピリチュアリテイをどのように理解するか 第 7 回 クリティカルケア・周手術期患者のためのアセスメントモデルの枠組みと理論背景② ・個人・家族・地域集団を全人的にどのように理解するか 第 8・9 回 クリティカルケア領域における家族看護の理論とアセスメント ・家族看護に関する理論と概要：カルガリ−看護理論 ・家族に対する援助のアセスメント ＜クリティカルケア領域における患者と家族の相互関係と看護介入モデルの活用と有用性の検討＞ 第 10・11 回 クリティカルケア患者・家族に活用できるＥＢＮに基づいた看護介入モデルを用いて考える 例：治療的タッチ、 共在、 積極的傾聴 等 第 12・13 回 例：急性混乱/せん妄患者・家族のケアの介入 第 14・15 回 例：睡眠障害を有する患者の看護介入 第 16・17 回 例：救命・救急医療と家族の意思決定への介入 第 18・19 回 例：家族機能の維持とコーピング促進への介入 第 20・21 回 例：ソーシャル・サポートの活用と家族ケアの介入 第 22・23 回 例：患者・家族にとっての看護の実際（プレゼン・討議）	第1回～第9回 吉田 第10回～第23回 吉田、小寺、吉川
評価方法 評価基準	授業参加状況 10%、プレゼンテーション 50%、課題レポート 40%	

教科書	特に指定しない	参考書等	適宜提示